

# 川辺川ダム事業に関する有識者会議(第5回)

## 議 事 録

～流域市町村長及び住民団体の代表者からの意見聴取～

日 時：平成20年7月13日(日)11:00～

場 所：人吉市 熊本県球磨地域振興局

出席者：全委員及びアドバイザー

### 【金本座長】

本日は有識者会議の現地調査の一環としまして、球磨川流域の皆様方の意見をお伺いしたいと申しあげましたところ、このように多くの方々にお集まりいただきまして大変感謝をいたしております。せっかくお時間をいただいておりますので、早速御意見をお伺いさせていただきますと思います。

まずは、地元の市町村長さんの御意見を伺いたいと思いますのでよろしくお願いします。

### 【流域市町村長】

それでは流域の市町村長を代表しまして説明申し上げたいと思います。

まずは、遠方からお越し下さって、この地域の実情を御覧いただきますことを心からお礼申し上げたいと思います。本日はよろしく願い申し上げます。

まず始めに、これまでの大きな水害を2つと最近の水害の実情を申し上げたいと思います。お手元にお配りしていると思いますが、ここに写しておりますように昭和40年7月に大きな水害がございました。御案内のように今の川辺川ダムの計画が立てられるその1つの発端になった水害でございます。6月28日頃から流域にかなりの雨が降っておりまして、ずっと水かさも増えまして7月2日の夜半になりまして流域のほとんど全域にわたって豪雨がきました。球磨川が氾濫しまして、特に人吉では水の出方が急速かつ甚大でございまして、市街地のおよそ2/3が浸水、家屋の流失等相当な被害を受けたところでございます。また、八代でも萩原堤が損傷し(聞き取り不能)または決壊、さらに川辺川でも家屋の流失、橋梁の流失等の被害が相次いでおります。今、配付しております写真ですが、右側の上の写真は人吉の中心街、今のホテル鮎里あるいは鍋屋の前の通り、九日町通りの当時の水害でございます。それから左側は人吉大橋の下流の右岸の状況でございます。また、下の方の右側は八代の、ちょうど橋が見えておりますが、現在の新萩原橋でありまして、その周辺全体が水没をします。さらに左側は人吉の今度国宝になりました青井神社の前、ちょっと下流側になりますが、そこらあたりの浸水状況であります。

それから次の写真ですが、これは下流の一勝地地区の水害状況、それから神瀬地区の水

害状況さらに下の段の左側は人吉の矢黒町の家があったところが流失した跡であります。このような被害がありました。この時の球磨川水系における被害状況は、家屋損壊・流失が1,281戸、床上浸水が2,751戸、床下浸水が10,074戸でございます。甚大な被害を受けました。後にも先にもこのような被害はないだろうということで、新聞でも未曾有の水害ということで報道をされました。

ところが、17年後の昭和57年7月、その間46年、47年と水害はあったんですが、この57年は特に水量が多く、全域でも降ったんですが特に人吉市付近が多く降りまして、人吉市よりも下流側が大きな被害を受けております。40年の水害の時の水位よりも、球磨村で、小川という支川がありますが、その支川のところで、少なくとも40年の水害よりも57年は1メートル位水位が高く上がったということであります。ここに写真がありますが、上薩摩瀬の写真、それから旧坂本村の状況でございます。また、右側は芦北町の白石の状況でございます。さらにこの写真は現在の球磨川下りの渡発船場付近になりますが、上が57年の水害当時の写真であります。下は現在の写真であります。今の写真と比べていただきますとその増水の状況がある程度御覧いただけると思っております。

さらに最近の被害なんですが、平成16年8月には台風16号がまいりました。床上浸水が13戸、床下浸水が36戸、避難勧告が人吉市で1,109世帯、相良村で431世帯、錦町で（聞き取り不能）というのがございました。

さらに平成17年9月、台風14号の被害がございまして、ここにありますように、坂本村あるいは昨日御覧いただきました一勝地地区の芋川のところでございます。それから下の、五木の頭地橋、さらに水の手橋より下流をのぞんだ人吉の状況でございます。この17年9月の時には、この上の右側の写真は相良大橋から見た川辺地区の写真でございます。雨宮神社というのがありますが、その一帯が浸水している状況でございます。この時には、床上浸水が46戸、床下浸水が73戸、避難勧告も人吉で431世帯、相良村で131世帯、あさぎり、あるいは多良木、芦北、こういうところで避難勧告も出ております。

さらに18年7月にも水害を受けました。ここにありますように八代の坂本町、あるいは人吉の木地屋、昨日通っていただきました219号の対岸になりますが、一勝地の淋地区の水害の状況でございます。

さらに今年、20年の6月21日の午後からございまして、ここにありますように球磨村の池の下地区で家屋浸水がございまして、八代地区あるいは人吉の水の手橋もかなりの増水がございました。床上浸水が18戸、床下浸水が15戸、避難勧告が八代が62世帯、人吉が1,020世帯、芦北でも5世帯、こういうような状況でございました。

このような度重なる水害を被っている我々流域住民の地域であります。これまでの川辺川ダム建設につきましても歩みであります。平成元年に県の働きかけで当時2市17町村、私共は川辺川ダム建設促進協議会を設立いたしました。そして、受益地、水没地を

含めた全流域で川辺川ダム推進に取り組むことになりました。

その後、最大の目的でございますダム建設について支援活動等を推進しながら、一方では球磨川の安全で潤いのある川づくりや魚がのぼりやすい川づくりなど環境面にも力を注いできたところでございます。その結果、平成6年には流域の多くの市町村議会で川辺川ダム建設促進に関する意見書を採択されていただいております。

また、平成7年には国による川辺川ダム事業審議委員会でダム事業の検証が行われ、9回にわたる審議の結果、平成8年に継続することが妥当であるという答申が出されております。その2ヶ月後には五木、相良、熊本県、建設省で川辺川ダム本体工事着工に伴う協定書に調印が行われております。付帯工事も順調に進んでおり、あとは本体工事着工と五木村の頭地大橋その他周辺整備事業が残っているところであります。

現在、川辺川ダムは利水事業をはずしたダムの計画が動き出しております。さらに発電事業の撤退も明らかになっております。

しかしながら、現在でも毎年のように水害にあい、多くの場所で毎年梅雨の時期や台風シーズンには水害の心配をしているという点では何ら流域の状況は変わっておらず、局地的な集中豪雨の増加や堤防も年を経る毎に間違いなく老朽化していくことを考えますと、堤防の決壊、越流のリスクは逆に高まっているのではないかと私共は心配をしているところでございます。

会員市町村の中には人吉市長さんと相良村長さんがダム建設には中立という立場を表明されておりますけれども、我々の活動趣旨には御理解をいただいているものと確信しております。

よく、我々は何が何でもダムを造ろうとしていると言われ方をされます。しかし、私共はダムの建設自体が我々の目的ではなくて、この急峻で狭隘な中流域、下流域を滝のように流れる球磨川の特徴からダムによる治水が最も効率的、効果的であると判断しているからであり、同時に、苦渋の選択によってダムを受け、ダムが出来ることによって周辺整備を行い、観光面を含め地域活性化を目指しております五木村のことも忘れてはなりません。

さらに平成18年には、鹿児島県薩摩川内市を中心として川内川が大氾濫し、大きな水害がっております。また、昨年は川辺川と脊梁を隔てた熊本県緑川が大氾濫し、美里町を中心に大きな水害がございました。球磨川はその中間にございます。川内川、緑川を氾濫させた豪雨がこの球磨川に降ったらと思うと私共はやっぱりぞっとするところであります。

地域住民を災害から守る、これは行政の最大の課題であり、我々市町村長の責務であります。引き続き防災、あるいは減災対策そういうものを進めるとともに山もまた必要であります。山を守り、森を育てる事業を進めなければなりません。さらに潤いのある川づくり、魚がのぼりやすい川づくりに取り組んで参りたいと思っております。

これを効果的に展開するためには、国、県、市町村が一体となる必要がございます。私達は、川辺川ダム建設を命を守る事業と考えております。今後、私達、球磨川流域市町村は力を合わせ、川辺川ダム建設を促進、流域の安心・安全と活性化に取り組んでまいります。事情を是非御推察いただき、格段の御高配をいただきますようお願い申し上げます。最後に、五木村の和田村長から申し上げます。

#### 【流域市町村長】

先日は大変ありがとうございました。遠いところ、暑い中、お出でいただきまして、意見交換できまして、大変ご苦労さまでございました。

昨日、現地でも説明申し上げましたとおり、五木村におきましては、平成8年10月に、全村民合意のもと、「ダム建設やむなし」という判断をいたしておるわけでありまして、その中で、今、350所帯が水没いたすわけでありまして、その内の1所帯を残しまして、すべて移転を完了致しております。その残りました1所帯につきましても、ダムが出来るとするならば、移転やむなしということで、お話を伺っておるところでありまして、水没に関する、いわゆるダム建設のハード事業に関しては、五木村においては、そう大きな支障はなくなったというような状況にあるわけでありまして、ただ、先程、柳詰村長からお話がありましたように、地域振興につきましても、多くの課題を抱えておりますので、皆さん方のお力添えをいただきたいというふうに考えております。

ただ、ダム事業発表されてから、かなりの時間が経過しておりまして、その間、水没移転されました人につきましては、下流域、あるいは県外、遠くは沖縄、あるいは兵庫県とお住まいになっているわけでありまして、その方々から言わせると、下流域の生命財産を守るために、墳墓の地を離れることになったと。そのことに対して、遅々として進まないこのダム建設事業に対しては、大変遺憾であるというふうなお声を聞いているところでありまして、今まで持っておりました田畑、あるいは、宅地、家、そういうものを手放した人にとりましては、下流域の生命・財産を守るために、国、県、あるいは下流域の市町村の働きかけによって、同意したものでありますので、そのことがなかなか思うように、目的どおりできないということに対しては、非常に不満の声が聞こえてくるということでもあります。

どうか、そういうことを踏まえながら、ハード面におきましては、五木村においては、たいした支障がないということでもありますので、御決断をいただいて、是非、そういう推進、当初の目的のと通りの推進を御支持いただければな、というふうに考えております。以上でございます。

#### 【金本座長】

どうも、大変ありがとうございました。委員の方からご質問ありますか。

(いらっしゃっている方のお名前をご紹介していただきたい)

紹介していただいてよろしいでしょうか。

#### 【流域市町村長】

はい、紹介を申し上げたいと思います。右側からですが、上流の湯前町長の鶴田でございます。それから、その次が山江村長の内山でございます。それから、水上村長の成尾でございます。それから、私の隣が、さきほどいわれましたように、五木村の和田村長でございます。隣は事務局であります。それから、錦町の森本町長でございます。それから、あさぎり町長の愛甲町長でございます。それから、多良木町の松本町長でございます。あと、芦北町の町長代理で藤崎課長がまいっております。以上、主だった者を御紹介申し上げます。よろしく申し上げます。

#### 【金本座長】

どうもありがとうございました。それでは質問があればお願いします。

皆さんの質問が出るまで、私の方から。人吉の方まで来ていただきまして、大変ありがとうございます。地元自治体の今後の人口とか、産業について、どういった展望があるのか、全員の方々からお聞きするのは大変ですから、代表されてどなたか。

#### 【流域市町村長】

それでは、球磨郡の町村長を代表しまして、水上の村長、成尾から御報告したいと思います。御承知のとおり、当地域は山林が大半を占める地域でございます。大半といたしましても、90%程度を占める人吉・球磨の地域でございます。この中で第一産業といえば、農業と林業しかないわけでございますけれども、農業につきましても、市房ダムで治水関係を行っております球磨地域の南部地域は、大変農業も盛んでございますけれども、北部地域、川辺川に関する校区は、農業が低迷しているのが現状でございます。

また、山につきましても、ご承知のとおり、山の立木、木材が安くて、どうにもならない状況なんですけれども、それを伐採して植栽するには、大変な時間とお金がかかる。それによって、生産される金額はわずかだということで、山の元気がどんどん落ちているのが現状でございます。それに加えて、その山を守っていくための植林が、どうしても、鹿とか獣類の被害が大変多く、いくら植栽しても枯れてしまうという状況で、山の荒れ方はひどいものがございます。それで、いままで、山の中には、人工林の中にも、たくさんのお木があったのですが、鹿の方が全部食べてしまいました。完全に保水力がなくなって、川の水が出る時に、一緒になって、保水力が少なくなっているような感じがいたして

おります。

そのようなことで、大変厳しい状況になっている状況でございますので、地域としては、人吉・球磨が一本となって、どうにかして、工場誘致をしながら、若い者を残そうということで、今一生懸命頑張っているところでございます。大変、少子高齢化が進んでおりますので、厳しい状況であることを知っていただきたいと思います。以上でございます。

【金本座長】

はい。どうもありがとうございました。

【森田委員】

では、すこし伺わせていただきたいと思いますが、これまでもいろいろと、推進派といいましょうか、反対派の方が多いようですけれども、たくさん意見書とかその他のお話を聞く機会をもっていたわけですが、意外と地域の水害に遭われた方がどのようにお考えになっているかという声が、聞こえてこないような気がいたしますけれども、皆さんのところの住民の方で、被害に遭われた方が、ダムについてどのように思っているのか、その辺の声を少し聞かせていただければと思いますが、いかがでしょうか。

【流域市町村長】

毎年毎年、被害を受けている球磨村でございますが、いつも表にといいいますか、マスコミに騒がれ表に出てくるのはどうしても反対側の方々のご意見が多いと思います。

しかしながら、少なくとも毎年毎年水害に浸かっているの方々、私は水害の度に、毎回、お見舞いに行くわけですが、本当に申し訳ないと言って回るだけでございます。是非、早くこの対策をしてくれというような要望が強いわけであります。

また、人吉市のある市民の方が、名前もおっしゃいましたが、先般、私どもが、ダム対策協議会の理事会で蒲島知事に要望を申し上げて、マスコミに取り上げていただいて新聞に載りました。その後でございますが、人吉のある市民の方から電話がございまして、是非、村長頑張ってください、我々は心配しております、という声もございました。ですから、なかなか表には出てこられませんが、やはり水害被害を心配されておる市民の方々、あるいは流域住民の方々が多いと私は思っております。

【金本座長】

はい、ありがとうございました。その他には。

【鈴木（和）委員】

先ほどのお話で、森林率が高くて、農業、林業に占めるところが大きいというお話の中で、あるいは、地球温暖化のからみで森林環境の変化ある中で、鹿の害が最大だということでしたが、対策というのは具体的にはどういうことをされているのでしょうか。あるいは要望というか展望というか、そういうのは何かございますでしょうか。

【流域市町村長】

鹿の害には困っております。私達も、山を守り、森を育てるといふ、そういうような事業を本当に考えておるのですが、今ご指摘いただきましたように、非常に鹿が多くなりまして、少なくとも山の下草がない状況でございます。

害虫駆除対策としては、まずはその鹿を捕殺するというのが一つです。それから、もう一つは、30年、40年育てました大木が、鹿の角で皮を剥がれ枯れる状況でございますので、その大木を巻く事業。それからもう一つは、鹿は山ばかりでなくて畑にも入るものですから、そういう畑、特に栗園その他については網で囲う、そういう事業、対策をしているところでございます。

しかしながら、本当に鹿の増え方は、我々が今取り組んでいる対策では追いつかない状況になっております。抜本的な対策がまず必要だと思っております。

【池田委員】

今、出水の状況をご説明いただいて、避難をする方が結構いらっしゃるというご説明がありました。避難に関して何か苦労されていること、あるいは高齢者等が避難しにくいとか、そういう状況がもしあれば、少し話をさせていただければと思います。

【流域市町村長】

先ほど来お話がありますように、非常に高齢化が進んでおりまして、少なくとも水害が心配をされますと、私共はまずは防災無線その他で周知を致します。そして、心配をされる場所には消防団員を配置いたします。出来るだけ早く自主避難をお願いするということにしております。ところが、本当にお年をとってこられますと、家を出られません。出られない訳です。ですから避難勧告をいたしまして、消防団員の皆さん方が連れ出すというような状況も起きております。

出来るだけ早く私たちも対策をとりたいんですが、「とにかく命を守らなくちゃいかん」ということを最上級に考えておりまして、是非早く避難をしていただくということをこれからも進めていきたいと思いますが、毎年毎年水害があって、本当に疲れております。そして言ってもなかなか動いてくれない人も実はおりまして、そこら辺が実は悩みになっております。

【金本座長】

はい、その他何かございますでしょうか。

【流域市町村長】

今、避難の問題が出たんですけれども、ここに町村長がいるわけなんですけれども、川辺川の水系の方が、大変今お話が出ているわけなんです。球磨川方面は、やはり市房ダムの恩恵を受けて、災害関係の避難は実際にはあまりないという感じで人吉まで下流域は守られているようでございます。それを御報告しておきたいと思います。

【金本座長】

はい、どうもありがとうございます。他にございませんでしょうか。よろしゅうございますか。それでは大変お忙しい中お集まりいただき、大変ありがとうございました。

【事務局】

それでは住民団体の方、前の方にどうぞ。

(発表者交代)

【金本座長】

ちょっと手間取っておりますが、これは配付していただいているものですよね。では時間の節約のために住民団体の方々から御説明をお願い致します。

【住民団体の代表】

皆さんこんにちは。私は住民団体の木本と言います。先ほど柳詰村長が昭和40年7月3日洪水が起きたと言われました。私はまさに市街地に住んで被害を受けた者の一人です。今から住民が求める治水対策についてお話ししたいと思います。

これは県民の意識なんですけど、最近の2008年3月の世論調査、ダム反対が58%です。賛成が16.6%です。地元も調べられておりまして、流域の地元の反対は68.5%です。

これは検討小委員会の中で、検討小委員会の結果を受けて国土交通省が53会場で報告会を致しました。その際に意見を聴取しております。発言した方が887件です。そのうち治水に川辺川ダムが必要であると発言された方は4件です。

私たちは2006年5月に、16、17年の洪水等の検証を行いました。床上、床下浸水の(被害に)あった方の家庭を訪問しまして、望む治水対策について話を聞きました。69戸のうち、川辺川ダムが必要であると言った方は2戸です。どうして、流域に近づけば近づくほど、それから、洪水にあわれればあわれるほど、ダムが必要でないと言った皆さん考



えられているのか、今から御説明します。

これは国土交通省の旧計画ですけれども、洪水調節、流水の正常な機能の維持、利水、発電と4つの目的を掲げてこの計画がはじまったんですが、利水事業と発電事業は現在撤退しております。だから、治水事業について、今から検討していきたいと思います。

球磨川流域の水害時の状況と住民が求める治水対策について、下の1, 2, 3, 4, 5の地区に分けて御説明をいたしたいと思います。

まず第1番目が1番の商業集積地である八代地区です。萩原堤防というのが右側にあります。これが八代の市街を守る一番大事な堤防です。国土交通省は20年に1回ここが破堤して、それで被害を被るために川辺川ダムは必要であると主張しておりましたが、この堤防は250年間決壊したことはありません。

これは過去最大の洪水が流れた時の八代の風景です。毎秒7,000トンが3メートル以上の余裕を持って流れています。工場等が営業している、その状態を御確認下さい。

八代地区での対策です。現状でも十分な流下能力があり、川辺川ダムは不要です。さらに堤防の強化対策をとれば、より安全に流れます。

一番下ですけれども、八代地区が20年に1回被害にあわなければ、どれだけの効果があるかということですが、国土交通省は1.55と計算しておりますが、八代地区の被害を除きますと0.73になります。

次は2番目の集積地区である人吉地区です。一番大きな建物が、昨日皆様がお泊まりになった所ですけれども、洪水を体験されていない方は、こういう写真を見られると、非常に危険だと、大変なことだと思いたしますが、私が住んでいるところも正にここにあるんですけれども、ここにちょっと赤い点々というんですかね、住民が川を見ている風景があるんですけれども、こういうふうな洪水というのは、私共はそんなに、初めての方が考えるより危険なものとは考えておりません。

昭和40年7月3日の水害がありまして、その後人吉地区はこの下流の方ですけれども、河床が、川幅がひろがっております。さらに中川原地区の右岸の方も河床の掘削が進められております。それで現在では昭和40年当時からすると飛躍的に流下能力は拡大しております。

これは市街地の図面です。この灰色の部分が堆砂した土砂です。これらの土砂を取り除くことによってさらに流下能力が増すということです。ただちょっと赤い丸のところですね。未改修の上、川幅が狭まり流れを阻害している。ここの地区は実は堤防が出来ておりません。未改修な訳です。

これはその地区の断面図です。この黄色い部分が未改修となって河道を狭くしております。これら河道を改修してこの土砂を取り除くことによって、さらに約20%の流下能力が見込めます。国土交通省がダムを考えるならば、まずこれらの堤防の整備を完全に行ってから、それでどれだけ流せるかということを確認してからやるべきだと思います。

人吉地区の対策です。通常の水位以上に貯まった土砂の撤去。人吉橋左岸の堤防の改修、

それから人吉地区となっていますけど、先ほどの球磨村の村長さんの地区ですけれど、内水排水設備等がまだ充実しておりません。洪水の中には、いわゆる本川の浸水によるものと、内水排除が出来なくて被害に遭われているという両方があります。内水排出設備の緊急な整備というのが、球磨村に対して必要だと思われます。

次は、中流域、球磨村、芦北町、八代市坂本町です。上の写真は、堤防等の改修が進んだところで、堤防にまだ余裕があります。反面、未改修の地区、これは、サンプルとして漆口地区なんですけど、ここあたりの未改修地区は、例えば人吉で4,000トンで被害にあわない場合でも、こういう未改修の地区は、毎年、水害にあわれているという現状です。どういう原因かといいますと、まず、ここは、瀬戸石ダム湖の端にあたりまして、堆砂が進んでいるということ、それから、瀬戸石ダムが満水になった場合のバックウォーターがかなりあるということです。これ御覧になって下さい。瀬戸石ダムですね、基礎部分5メートル、これはやはり河床をこれだけ押し上げているということであります。ダムの高さ26メートル。もし、これがなければ、今の地区の洪水はかなり軽減出来る。中流域の洪水の原因は少しずつ違います。本川の場合もあるし、小河川の場合もある。内水の場合もあるということです。色々な洪水の原因があるということです。

荒瀬ダム及び瀬戸石ダム、これらがやはり水位を上げたり、あるいは堆積物を堆積したりということで、洪水に対しては悪影響を与えている。既存ダムの撤去が効果的ではないかと思います。

中流域の対策です。こういった河川改修の早期実施、荒瀬、瀬戸石ダムにたまった土砂の撤去、荒瀬、瀬戸石ダムの完全撤去、これらが効果的な方法だと思います。

次は、人吉市より上流域の相良村、錦町等です。これは、相良村の川辺川です。洪水が起こりますと、どうしても、住居、道路、田んぼというふうに低くなっています、やはり、最初に冠水するのがこういう水田であると思われます。こういうふうに冠水することが多々あります。これは、錦町、本川の方です。球磨川の方の川辺川との合流点の近くなんですけれども、先ほど見られたと思いますけれども、こういうふうに浸水いたします。次の日に、もし、浸水等がひどくない場合は、稲等がちょっとぶら下がるように軽微な状況で立っておりますけれども、しかし、これが水位の上昇の程度とか速度によっては被害を被ることが考えられます。

上流域の対策として、やはり、こういう浸かると言いますか、罹災農地への補償というのをやはり今から考えていかなきゃいけないのではなからうか。それから、部分的にやはり堤防の強化であるとか、道路の嵩上げが必要である。それからやはり、河床を見ますと、堆積土砂がかなり蓄積している場所があります。その堆積土砂の撤去、ということが私達が望む対策です。

次は、五木村と書いていますけれども上流山間部の話です。国土交通省は、この赤い点

一つ、生命財産を守るためにダムが必要であるということで、これらの人が亡くなったということもダム建設の理由にしておりましたが、私共の団体に調査しましたところ、川の増水による死者は、一人しかいませんでした。あと残りの赤い点の方は、ほとんど土砂災害で亡くなっています。川辺川ダムがもし出来ても、これらの方々は救えません。

これは、横軸が年度です。ちょうど昭和40年代ぐらいに森林が大伐採されています。これに先程の土砂災害の数を重ねますと、御覧になってわかるように、ちょうど伐採が頻繁に行われて山が荒れていた時期、ここに土砂災害が多発しているということが明らかになる。その後、拡大造林から植林が行われまして、森林の保水力も回復してきたのは事実です。しかし、やはり、先ほど村長さんおっしゃったように間伐されない人工林とか、そういうものが沢山あります。これらでは、災害は防げない。逆にまた、災害の温床になることもある。適正に間伐された人工林というのは、下草がちゃんと生えていますし、保水力も望める。

五木村の対策です。荒れた人工林の間伐を進める。結果として森林の保水力が高まったり、土砂災害から生命を守ったり、洪水のピーク流量を下げたり、地域の雇用の場が確保されるというふうなことを考えています。

まとめです。総合的な治水対策として、内水、排水施設の整備、河川に堆積した土砂の撤去、堤防の強化、現状で浸水する宅地の嵩上げ、遊水地の指定、放置人工林の間伐、荒瀬ダムなどの既存ダムの撤去、これらを治水対策として考えております。

次に、ダムに頼る治水は危険で問題が多いということをお簡単に説明します。超過洪水、想定以上の洪水では大惨事が起きる。市房ダムと同時放流の危険性がある。ダム堆砂によるダムの寿命、それからダム本体予定地の土質の問題、ダム本体予算、いわゆる事業費と維持管理費の問題、水質汚濁、それから濁りの長期化のこと、広大な自然環境の破壊、その他、たくさんあるので、今ここで全てを御説明は出来ないの、いくつかを説明したいと思います。

これは、川辺川ダムの完成予想図です。一番上段に4本の非常用放水門というものがありまして、これはダム本体を守るために造られています。もし、ダム湖が想定以上の洪水で満水になった場合、国の川辺川ダム計画では、ハイウォーターが4,000トンで、1.5メートルの余裕がまだあるんですが、そこに仮に5,160トン来るとすると人吉の街は壊滅します。

これは、ダムに頼った治水がどのように危険かという説明なんです。ダムに頼った治水というのは、河道が小さく設定されている。人吉で4,000トンです。そこに想定より多い雨が降りますと、いわゆる超過洪水が起こりますと、先ほど話しました非常用放水門から放水がたまして、想定以上の洪水が来ると急激に増水し、河道から溢れ、被害が甚大する。

次に、ダムなしの総合治水の場合には、河道で流量を消化しようとしていますので、想定より多く雨が降った場合に、河道に余裕があり、様々な対策をとるためにダムより安全である、ということです。

これは、国土交通省の川づくり報告会で出された資料です。国土交通省は、河床を掘削すると、人吉層という軟岩層が出て、非常に水質とか、環境汚染、観光にもダメージになると言いますが、この写真は、実は、市房ダムの下流の明廿橋というところの状況なんです。市房ダムが土砂をストップしたために、こういう状況が出ている。

これは、球磨川下りで、人吉球磨地区の観光の目玉です。球磨川下りとアユと両方あります。例えば、今日、皆様の資料の中に、アユの産卵場所について説明があると思いますけれども、実際にアユが産卵出来るのが八代の最下流の遙拝堰から下だけです。仮に産卵しましても、アユは海まで下らないと大きくなりません。いわゆるアユについて、ダムが出来ると致命的な被害を被る。球磨川下りもそうです。仮にダムを造って、それで、渇水時にダムからの補給水で球磨川下りをしろ、という発想もありますけれども、川本来は、洪水とか渇水とか繰り返すのが自然な状態です。濁り水の中に球磨川下りを浮かべて、それで観光のために本当になるのか、という事には大きな疑問です。

まとめです。県民はダム無し治水を求めています。現状で過去最大の洪水が来たとしても、人吉・八代で溢れることはありません。過去最大の洪水が来ても、安全が確保出来る総合的な治水対策は可能です。ダムに頼る治水は危険で問題が多いと考えます。国土交通省は、ダムなしの河川整備計画を策定するべきだと私達は考えます。

もし、ダム撤去が実現するとどうなるか。これは荒瀬ダムの写真です。ゲート開放時の荒瀬ダムの写真です。これが荒瀬ダムのダム湖です。これが、もし、ダムのゲートを全開するとこのようになります。これもダム湖です。右側の流れ込みが、いわゆる自然河川のきれいな水が流れ込んでいます。つまり、ゲートを全開することによってこのようなきれいな瀬が出現するということです。

これは瀬戸石ダムです。これは瀬戸石ダム湖です。瀬戸石ダムも全開しますとこのようにきれいな瀬が出現する。これはやはり、観光の面でもまた釣り等の経済的な効果にも非常に良い影響を与えるのではないかと思います。ダム計画を止め、そこに投じられるはずだった予算をダム以外の治水と利水に振り替えるべきだ。その方がダムにこだわるより、早く、安く、確実に、生命・財産が守れる。しかも、人々が愛してやまない清流をそのまま残せるのだ。どうもありがとうございました。

#### 【金本座長】

それでは、委員の方々から質問、意見があればお願いします。では鈴木先生。

【鈴木（雅）委員】

伺いたいのは、人吉で水位が非常に高くなっている写真をお示しいただいて、見たことのない人がこの写真を見て危ないと思うほどは危なくない、というような御説明がありました。もうちょっと説明していただきたいと思います。やっぱり私はあの写真は、かなり衝撃的なというか、危ないなというか。

【住民団体の代表】

私は生まれてからこの地域に住んでいますし、この地域は、昔、昭和40年以前、この堤防がなかった以前にも中小の洪水があってました。ただし、この堤防ができたのは昭和40年7月の洪水以降です。

ここの地域の、いわゆる先ほどの市街地の話ですが、ダムを望むという声はほとんどありません。皆さんダムよりは今の私たちが言う治水を必要としている。それから、やはり怖いと言う方は、川のそばに住んでいらっしゃる方は、水の出方とか量とか、今、上流にどれくらい降ってて、どれくらい増えるのだろうか、とかいうことに対してほとんど経験則がありませんので、恐怖に思われることは事実だと思えます。

【池田委員】

先ほどの村長さんの御説明のナンバー1になるんでしょうかね。萩原橋付近の様子だと思いますが、これを見ると破堤をしているということのようですが、一方では、今の御説明では、250年間決壊していないということで、こちら辺りが私分らないので説明していただきたいと思えます。

【住民団体の代表】

八代に住んでおります、つると申します。先ほど柳詰さんが説明された写真をもって説明させていただきますけど、ナンバー1の右下の写真ですね。これ、破堤しているように見えるんですけど、この時の堤防の状況というのは、石垣を積んだような堤防であって、今にも崩れそうな堤防の上に旅館が乗っかっていたんです。その堤防がえぐれて上の旅館がひっくり返ったのであって、堤防を越えて八代市の方に水が流れ込んだという状況では全然ないんです。

それと、その写真の右の方に住んでいる所は、そこは堤防の中なんです。遊水地になっていたところに安全だから人が住みだして、そこに床下浸水の被害はあったけど、そんなに大きな被害はなかったと思います。ですから、ここは250年間堤防を越えて八代市内が水害にあったということは一度もないです。

私が住んでいる、この写真で見ると、左岸の堤防は今よりも3メートル低かったんです。もしもの場合はそちらを犠牲にするようにつくられていたんですけど、その3メートル低

い状態でも堤防を越えて街に水が溢れたということはありません。だから、この写真を使われるのは、本当に地元にとっては迷惑で、堤防を越えたような印象を与えているんですけど事実は全く違います。

【住民団体の代表】

先ほど、堤防が決壊して住宅が崩れたと、旅館が崩れたところがあるんですね。でもそれは堤防自体が決壊したのではなく、堤防から張り出して、違法の状況でつくられた旅館だったんです。今のあれからすると、違法住宅で絶対建てられない所なんです。

【池田委員】

今、御説明になっているのは先ほどの御説明ですか。

破堤の原因は3つありますね。御存知だと思います。これは溢水はしなかったということですか。

【住民団体の代表】

そういうことです。はい。

【池田委員】

じゃあこれは水が出てきたのは、洗掘か何か起こしたんですか。

【住民団体の代表】

そうです。石垣自体が自然石をそのまま積み重ねて、コンクリートとかそういうものを一切使用してなくて、穴が一杯あいていました。今にも崩れそうな石垣だったんです。それがその時に崩れたというだけの話です。

【鷺谷委員】

治水に関するポイントはとてもよく分かりました。今回、県が見せて下さった所も、だいたい治水に対する検討するための箇所だったんですね。私自身は自然環境の方が専門なものですから、もう少しそれについて深く考えることができるような所を拝見できたらと思っていたんですが、もちろんダムができれば上流、下流の自然環境というのは大きく、生態系としては、違うものになるというのは一般論としてはあるんですが、この川辺川ダムの、もしかしたら水がたまるかもしれないという所に、貴重なコウモリが営巣する洞窟があるということとか、クマタカの生息にとって重要な環境が失われるのではないかという御懸念があるということに対して、意見書で拝見しておりますので、もし、そのことやその他のことで、自然環境に関して今御懸念されているようなことがありましたら、その

ことに詳しい方から御説明を頂ければと思います。

【住民団体の代表】

すみません、20分の時間内で時間がなくて割愛させていただきました。本当に失礼いたしました。ちょっと簡単に説明します。

【住民団体の代表】

住民がやっぱりこれになぜ反対するかというと、やっぱり下流にできた荒瀬や瀬戸石によって下流の環境が大きく変わったから、そのことをすごく環境を犠牲にしてるという実感がとてもあるんですね。それでまず環境に関しては強いんだと思います。

それと先ほどの九折瀬の状況ですけど、これはダムが出来た場合のダム湖の湛水湖の端にあります。そして、見られたかもしれませんが、洞窟の入口が一番下にあって、それから徐々に高くなって上の方にコウモリの生息地である東ホールというのがあるんですね。水没すると、その入口の高さが5メートル位だったと思うんですが、そこが浸かってしまいます。洞窟というのは皆さんが御存知のように、ほかの動物と隔離された生態系の中でずっと進化してきた生物がいるのですから、九折瀬には九折瀬にしかない特異な色々な生物がいるんですね。それは、もちろんコウモリのふんに生態系の出発点としていますので、コウモリの出入りができなくなったら、ここの貴重な異種、クマタカ全部が消えるのと同じくらいの異種っていう貴重な種がいなくなる。そういう特異性の点からも、九折瀬というのは非常に重要なのだと思っております。

クマタカですけれども、国交省は営巣地がダムサイトから離れているから大丈夫だということで説明していますけれども、私達が調査したのでは、えさとり場の60%位もダムサイトに依存しているんですね。その中でクマタカのつがいが生息しているんですけれども、なかなか今でも子育てができない環境にあります。子どもは生まれるんだけど、その後、成長しきれなくて繁殖の失敗に終わっている。これが近年の傾向です。

その中でダムサイトの環境というのがとっても重要なんですね。だから、営巣地が遠くに離れているから大丈夫だとか、そういう状況になくて。また環境もとても悪いんです。自然林も本当に少ない所で、よくこんな狭いところに生きてるなっていう、そういう感じなんですけど。そういったのがダムの周辺に何つがいかあるわけですけど、他のつがい、ダムサイト以外のつがいに関してはまだ調査が十分ではありませんので、やはり今後調べていく必要があるかなと思っております。

それと、一番環境でやっぱり心配されるのは、アユが生息できるかとかそういう意味じゃなくて、球磨川にとって経済的価値のあるアユが、ここでずっと生息できるのかという、このことなんです。放流して、そこで産卵して生きているからいいんじゃないかという問題じゃないんです。上流で先ほど産卵してるって言ってましたけど、やっぱり4日以内

に海までたどりつくということが前提ですので、生まれて4日以内に、途中でダム湖があると下流まで下れません。それで、今、産卵場としてあるのは、遙拝堰の下流に、いくら上に産卵場があっても、遙拝堰の河口で生まれたのしか海までたどりつけない。このことがすごく経済的なデメリットが大きいんですね。

それと、不知火海の干潟というのは、荒瀬ダムができて不知火海全体で35%位干潟が減少しています。ところが、八代河口から南に限って言えば、40%しか残ってなくて1,000ヘクタールくらいの干潟というのが消失しているんですね。

荒瀬ダムができて以降、漁獲高というのはどんどん激減して、アマモ場はまず全部なくなりました。砂干潟もほとんどなくて泥干潟が残っている、そのような状況です。

荒瀬ダムも試験的にゲートを開けたおかげで、最近少しずつ砂地が戻ってきて、アサリも一昨年に比べて3倍位獲れ始めている。そういうような状況なんですね。

そういうのを目の当たりに漁師さんとかみんな見ているので、やっぱり80年に1度あるかもしれないけれど、まず2、3年に一度の水害をふさいでいただいてもらって、環境と両立する。これこそが河川法の「利水」、「環境」、「治水」3本柱の上に立って治水方法を考えてほしいというのが、住民の思いだと理解しています。

#### 【金本座長】

どうもありがとうございました。大分時間を超過しておりますが、何か、委員の先生方からございますか。

#### 【森田委員】

私、ダムの専門家でも、環境の専門家でもないんですが、御主張されていることの論理を少し伺いたいのですけれども、ダムに反対される理由は、先ほども理由が挙がってありましたけれども、水害の可能性があるということですが、それは現状の先ほど言った改修手段で、完全にそれを抑え込むことができるかと理解されているのか。あるいは、今もちょっと御発言がございましたけれども、2、3年に一度の確率の水害は何とか防止する。80年に一度はこれはまた別の話だと。その時の水害のリスクというものは、あえて言えば、自分たちで受け止めても、環境ないしその他の価値を守るというふうにおっしゃっているのか。そここのところは、これから温暖化の問題も出て参りますし、そもそも、その辺の判断はどうされているのか、具体的にお願いします。

#### 【住民団体の代表】



2、3年に1度の洪水については、ダムが無くても十分対処は可能です。80年に1度の洪水につきましては、先ほどの超過洪水のところで御説明致しました。逆に、ダムパンクという状況になった場合に超過洪水は一層の被害をもたらす。

それから、例えば、今年の水害で、もし川辺川ダムがあったならば水位を40センチメートル、人吉市地区で低下できたであろうというふうに国交省は言っておりますが、40センチメートルの水位低下は、先ほど私達が説明致しました20%の河床断面を広げること、あるいは河床の掘削、これで十分対応できる。つまり、通常の洪水については(対処)できると。

ただし、先ほど私も言いましたけれども、洪水は原因がたくさんあります。例えば球磨村の村長さんの地区の場合には、内水面の問題もあります。それから、小川川という中小河川の問題もあります。そういったところは、やはり、どうしても宅地を嵩上げする必要があるという箇所があるのは事実でございます。

ただし、川辺川ダムという超過洪水に訴えたダム建設はこれはリスクが大きいと考えます。

#### 【森田委員】

もう一度確認させていただきますけれども、80年に1度と2、3年に1度との間には随分幅があると思うのですけれども、そのところはどのようにお考えかということですが。

#### 【住民団体の代表】

2、3年という洪水はですね、この16、17、18年というのは、4,000トン程度の洪水がありました。これがだいたいハイウォーター位の洪水ですが、それを上流、中流、下流に分けないといけませんけれども、まず、私が住んでいる人吉地区、それから八代地区、この2つの大きな商業集積地では、まず大きな水害にはなり得ません。

逆に4,000トンの洪水でも、人吉4,000トンでも球磨村地区にはやはり被害を及ぼす所、未改修地区ですけれども、そこがございまして。それには、仮にダムがなくても4,000トン、ダムが4,000トン以上ですから、4,000トンいかなくても、いわゆるダムがあってもしょうがない、ということです。

#### 【森田委員】

確認させていただきたいのは、30年、40年、50年に一度というその中間的な確率があるわけですが、2、3年に一度なら大丈夫で、80年に一度を超えるとダメだ

としたら、その中間的な部分についてはダムがあることによって抑制できるか。あるいは、その部分も、ある意味でオーバーフローするかもしれない。その場合に、水害になったとしても、それは受け止めるべきであるというふうにお考えになるのか、その点です。

【住民団体の代表】

80年に1度というのは、7,000トンとしまして、人吉地区で、特殊堤という堤防がありますが、あれを、もし天端まで計算して余裕高をもつ、ちょっと乱暴な意見ですけど、余裕高を考えない場合は7,000トン以上の流下能力を持つことが出来る。したがって、50年に1回でも60年1回でも、人吉、八代という大きな地区、大きな商業集積地区では過大な水害は起こらない、そういうふうにお考えます。

【住民団体の代表】

言わせてください。

【金本座長】

はい、どうぞ。

【住民団体の代表】

中流域の被害を受けております、漆口地区の緒方雅子と申します。昨日、対岸の219号線の方から見られたと思いますので、私は麦わら帽子を振って、是非とも降りてきて、そして私達が、6月22日も水害にあいましたので、まだ片付けている状況、家の被害の、水の被害の状況を間近にみていただきたいということを私は希望していたのですが、対岸から見られて残念です。

お手元に私の思いというものを配っておりますけれども、届いておりますでしょうか。私は60歳ですが、15回ほどですね2メートルから4メートル位の水害を経験しております。家で申しますと2階から3階というところ。そのところを泳ぐような形で、そして肥薩線というところにおいてトンネルの中に逃げ込むという、そういうような大きな水害です。なぜ、このような水害が起きたかと申しますと、3つのダムが出来てからなんです。荒瀬、瀬戸石、そして市房ダムです。先ほどは、市房ダムの効果とおっしゃいましたけれど、下の荒瀬ダムが堰き止めて、バックウォーターになる。そして、瀬戸石ダムが堰き止めてバックウォーターになる。いつもバックウォーターの水の上に、この頃は特に異常降雨です。1時間降雨量なんてものすごく多くなりました。それが、どっときます。どっときて、吐ききれない上に、市房ダムが放水するわけです。ですから、私達はいつも水害常襲地帯の者は、ダムによって、ダムがあるから水害にあっているんです。ダムが水害を増大させた、みんな言います。90歳くらいの老人の方達にもいってください。本当

にダムが出来てからこうなったんだ、これは水害の被害にあったものは、みんな経験したことを言うはずです。私たちはダムを望んではおりません。それよりも、この川辺川ダムの建設を進めんがために、お金をですね、調査費とか、本来すべきであった嵩上げとか、そういうようなことが遅れました。このために、水害にあわなくても良かったのに、水害にあったと思っております。本当に有識者の皆さん、私達住民はダムによらない治水対策を望んでおります。これ以上、水害被害を増やさないためにも、ダムは造らないでください。そして整備をのばすためにも、今ある、荒瀬ダムや瀬戸石ダムの撤去のために尽力されることを望みます。よろしく願いいたします。

**【金本座長】**

はい、どうもありがとうございました。それでは、時間も超過しておりますので、これまでにさせていただきたいと思います。本日は、お暑い中、貴重なお話をいただきまして、大変ありがとうございました。

**【事務局】**

はい、ありがとうございました。これで、意見をお伺いする会を終了させていただきます。それでは、大変ご苦勞ではございますが、大変タイトなスケジュールで申しわけございませんが、昼食、休憩を挟みまして、予定どおり1時から開催したいと思いますので、よろしく願いします